

自立活動の基本



特別支援学校の教師に求められる専門性

多様な実態の子供の指導を行うため、特別支援学校の教師には、障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を十分把握して、これを各教科等や自立活動の指導等に反映できる幅広い知識・技能の習得や、学校内外の専門家等とも連携しながら専門的な知見を活用して指導に当たる能力が必要である。

新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議 報告（2022年1月）

自立活動って？

何したらいいの？

肢体不自由の学校だから
体の学習をすればいい？

やってたことを
そのままやろう



専門性がない
とできない？

自立活動の目標

個々の児童又は生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基盤を培う。

特別支援学校小学部・中学部学習指導要領第7章第1

自立活動の位置付け

心身の調和的発達



各教科

道徳科

外国語活動

特別活動

総合的な
学習の時間

自立活動は
各教科等の学習の
土台をつくる

調和的発達の基盤

自立活動

(障害による学習上又は生活上の困難を改善)



各教科と自立活動の関係

<教育の目的>

人格の完成

社会の形成者の育成

もてる力を発揮する子ども

社会に参加し
よりよく生きる子ども

調和的発達

各教科

道徳科

外国語活動

特別活動

総合的な
学習の時間

すべての子どもに共通の視点
学びの段階が異なる

調和的発達の基盤

自立活動

(障害による学習上又は生活上の困難を改善)

障害による学習上の困難：個の視点
学びの中身が異なる

自立活動で土台を築き
その上で社会とつながる各教科等を
積み上げていく

安定した
体調

覚醒

活動に向かう
姿勢・動き

自立活動

見る力
聞く力

人に向かう
関心

自立活動の目標

個々の児童又は生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基盤を培う。

一人一人の自立を目指した 主体的な活動

自立活動の指導の対象 子ども一人一人の障害による困難 ⇒ 一人一人異なる



自立活動の指導目標と指導内容は個別に設定する

自立を目指す

個々の児童又は生徒が自立を目指す、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基盤を培う。

自己の力を可能な限り発揮し、よりよく生きていこうとすること

自立 = 一人で全てできることではなく、
支援を受けても、その時点の状態よりも良い状態を目指すこと

自立活動 二つの要素

人間としての基本的な行動を
遂行するために必要な要素

人として生きていく上で必要なこと

障害による学習上又は生活上の困難を
改善・克服するために必要な要素

その子が困っていること

自立活動の内容 6 区分 27 項目

健康の保持

- 1 生活のリズムや生活習慣の形成に関する事。
- 2 病気の状態の理解と生活管理に関する事。
- 3 身体各部の状態の理解と養護に関する事。
- 4 障害の特性の理解と生活環境の調整に関する事。
- 5 健康状態の維持・改善に関する事。

環境の把握

- 1 保有する感覚の活用に関する事。
- 2 感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事。
- 3 感覚の補助及び代行手段の活用に関する事。
- 4 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関する事。
- 5 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事。

心理的な安定

- 1 情緒の安定に関する事。
- 2 状況の理解と変化への対応に関する事。
- 3 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事。

身体の動き

- 1 姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事。
- 2 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関する事。
- 3 日常生活に必要な基本動作に関する事。
- 4 身体の移動能力に関する事。

人間関係の形成

- 1 他者とのかかわりの基礎に関する事。
- 2 他者の意図や感情の理解に関する事。
- 3 自己の理解と行動の調整に関する事。
- 4 集団への参加の基礎に関する事

コミュニケーション

- 1 コミュニケーションの基礎的能力に関する事。
- 2 言語の受容と表出に関する事。
- 3 言語の形成と活用に関する事。
- 4 コミュニケーション手段の選択と活用に関する事。
- 5 状況に応じたコミュニケーションに関する事。

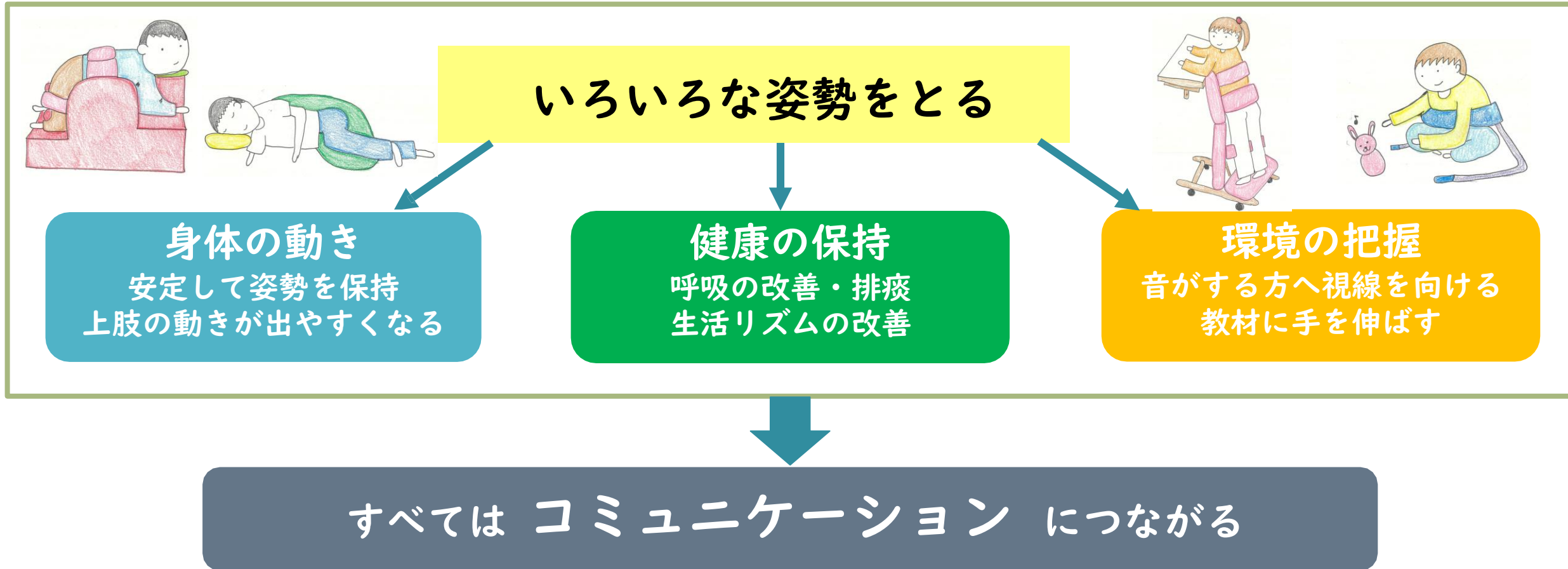
自立活動の内容 6区分27項目

健康の保持	環境の把握
(1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関する事。 (2) 病気の状態の理解と生活管理に関する事。 (3) 身体各部の状態の理解と養護に関する事。	(1) 保有する感覚の活用に関する事。 (2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事。
人として生きていく上で必要なこと	
心理的な安定	身体の動き
(1) 情緒の安定に関する事。	(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事。
その子が困っていること	
(1) 他者とのかかわりの基礎に関する事。 (2) 他者の意図や感情の理解に関する事。 (3) 自己の理解と行動の調整に関する事。 (4) 集団への参加の基礎に関する事。	(1) コミュニケーションの基礎的能力に関する事。 (2) 言語の受容と表出に関する事。 (3) 言語の形成と活用に関する事。 (4) コミュニケーション手段の選択と活用に関する事。 (5) 状況に応じたコミュニケーションに関する事。



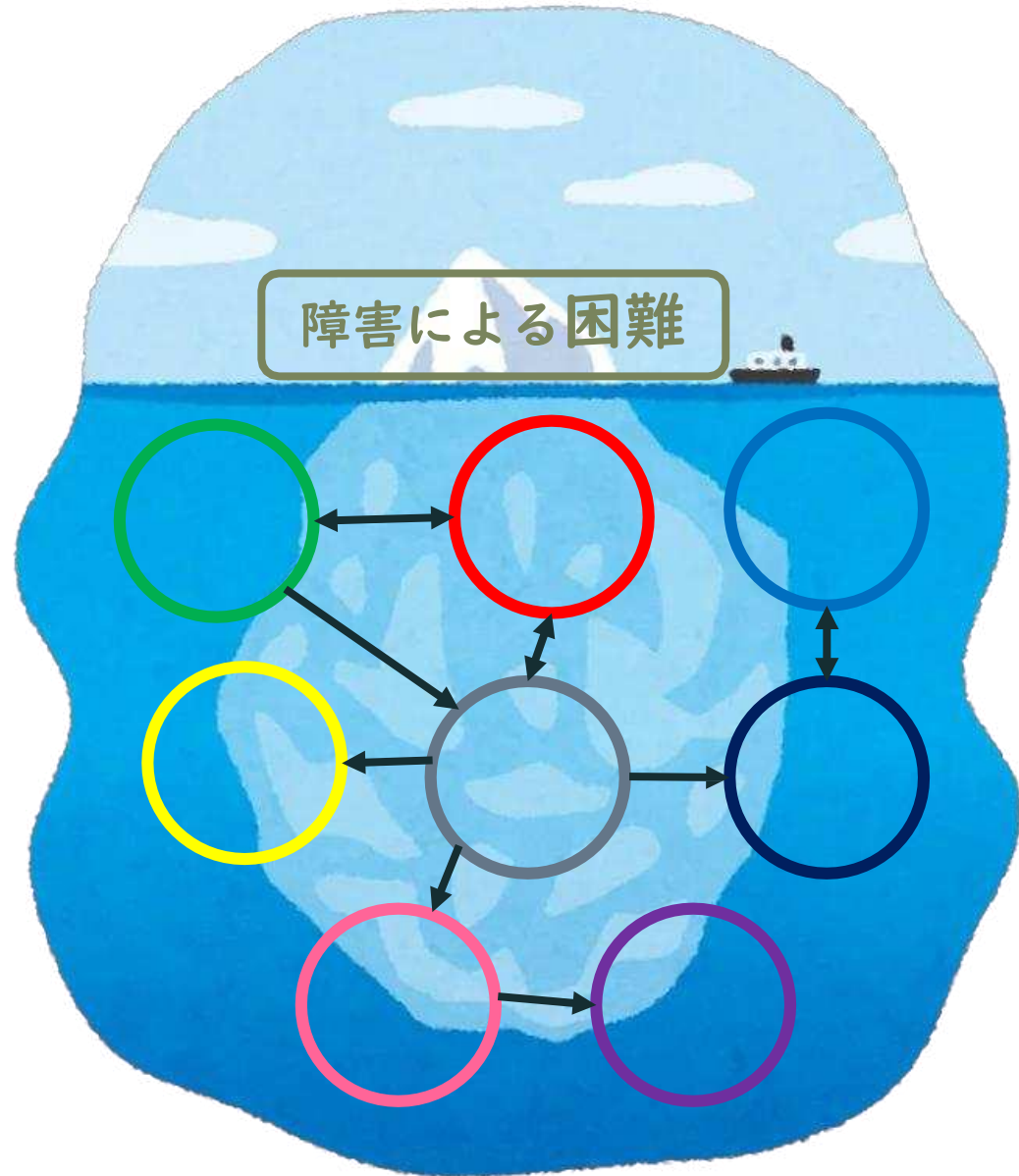
6区分27項目全てを指導しなくてもよいその子のニーズに合った必要な項目を選び
相互に関連付けて学習内容を考える

「からだ」の取組は、「身体の動き」に関する内容だけ？



その活動を通して

子どもは何を学ぶのか何を育てたいのかを考えることが大切



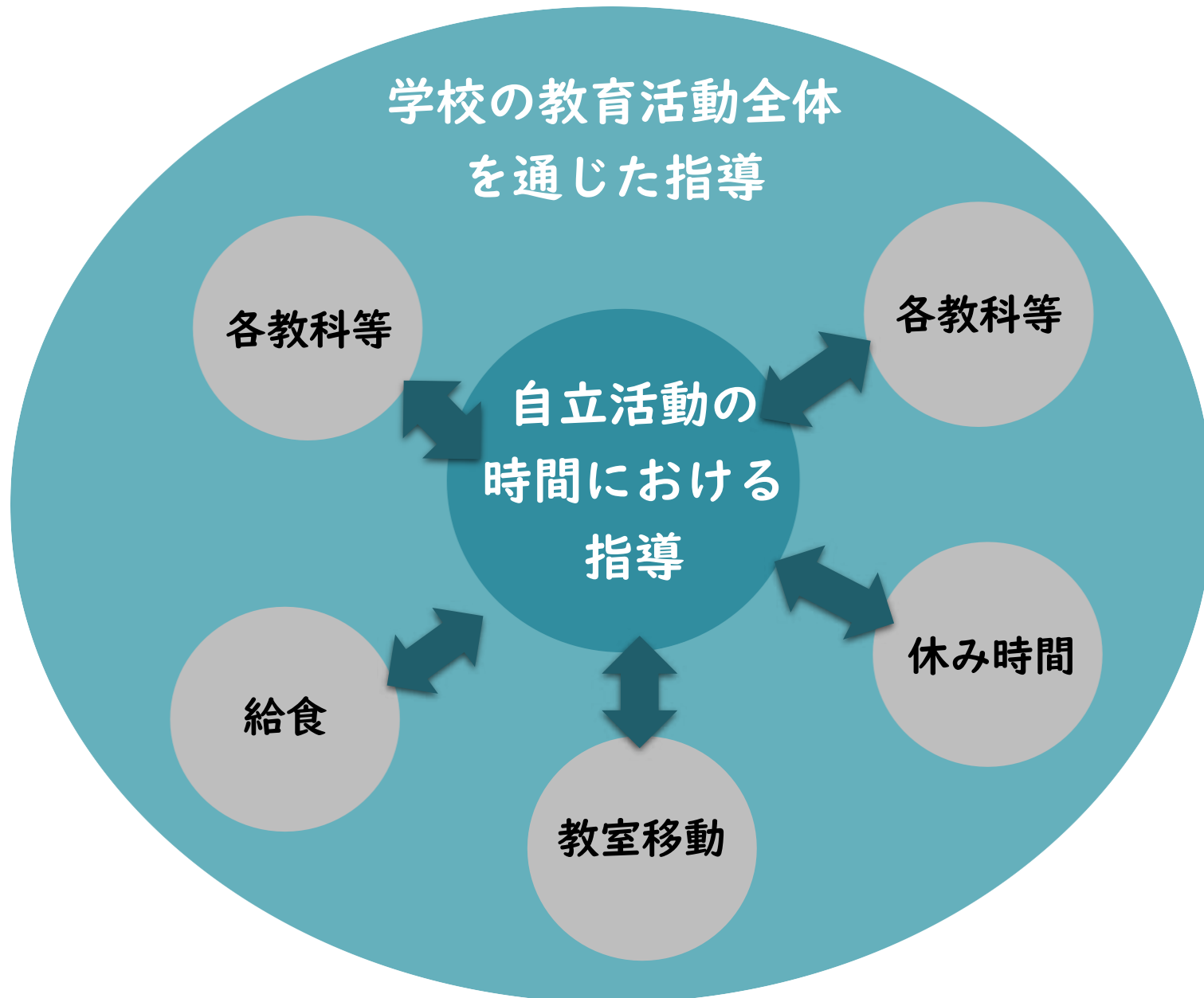
見えている困難さから背景や要因を探る



- ・ 困難の背景にある要因は一つではなく複雑に絡み合っている
- ・ その要因は子どもによって様々

自立活動の指導の場

学校における自立活動の指導は、障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服し、自立し社会参加する資質を養うため、自立活動の時間はもとより、学校の教育活動全体を通じて適切に行うものとする。特に、自立活動の時間における指導は、各教科、道徳科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動と密接な関連を保ち、個々の児童又は生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を的確に把握して、適切な指導計画の下に行うよう配慮すること。



自立活動の時間に
学んだこと



他の授業や
生活の場面で使う

ねらいの
共有が大事

何を？ どこで？ どうやって？

いつでも どこでも 自立活動

指導目標

二つの選択肢から、好きな方を指さして選ぶ

自立活動の時間における指導

- ・ あぐら座位で頭部を保持する。
- ・ 玩具を目で追ったり、二つのものを見比べたりする。
- ・ 玩具に手を伸ばして遊ぶ。

学校の教育活動全体を通じた指導

(生活単元学習)

読んでほしい本を選ぶ。鳴らしたい楽器を選ぶ。

(給食)

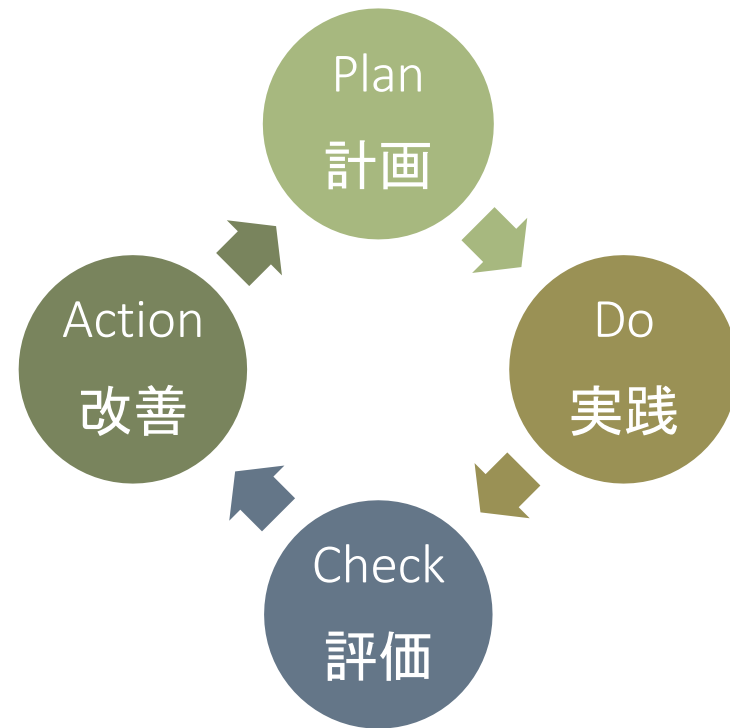
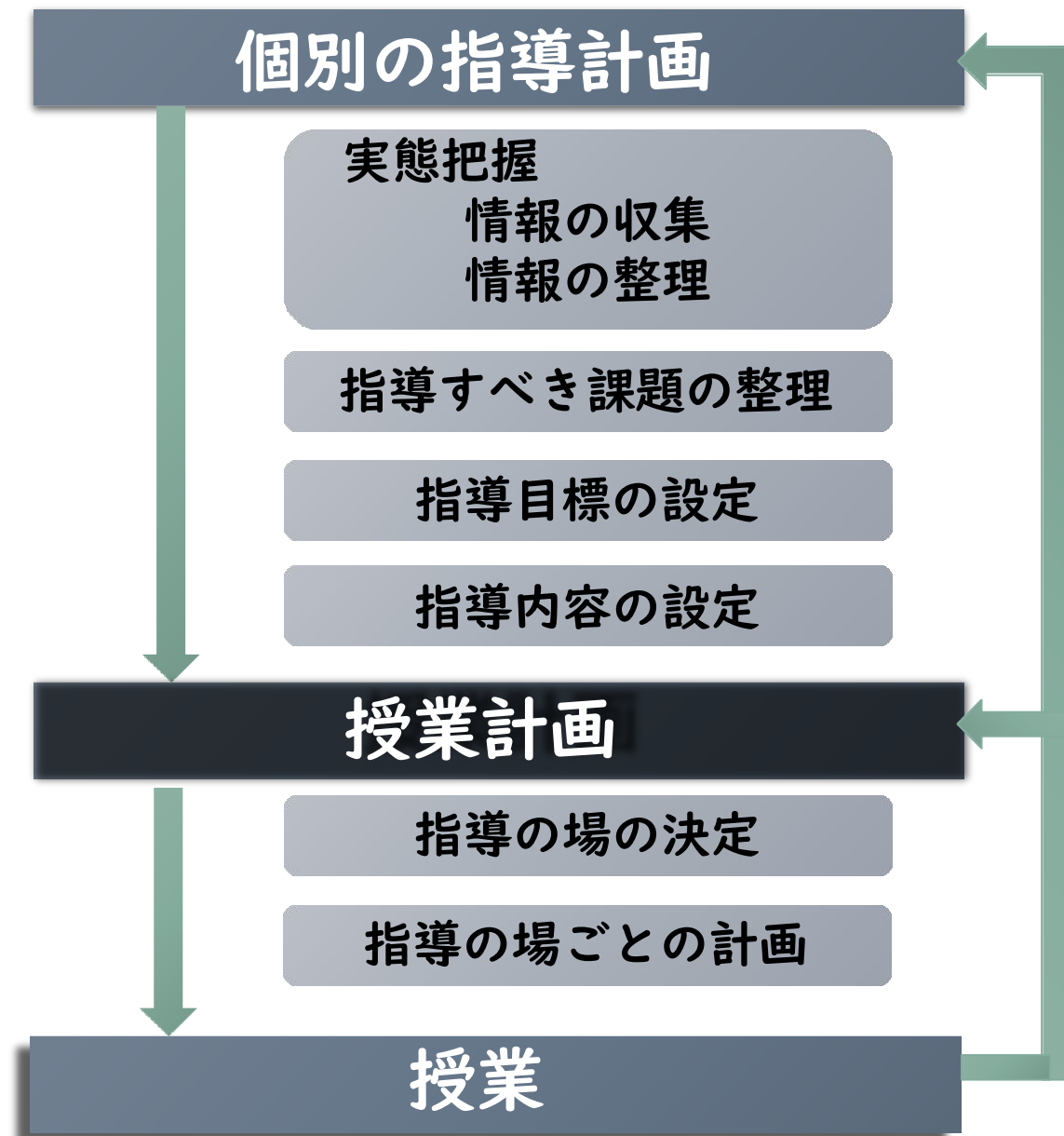
食べたいおかずを選ぶ。

個別の指導計画の作成

自立活動の指導に当たっては、個々の児童又は生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等の的確な把握に基づき、指導すべき課題を明確にすることによって、指導目標や指導内容を設定し、個別の指導計画を作成するものとする。

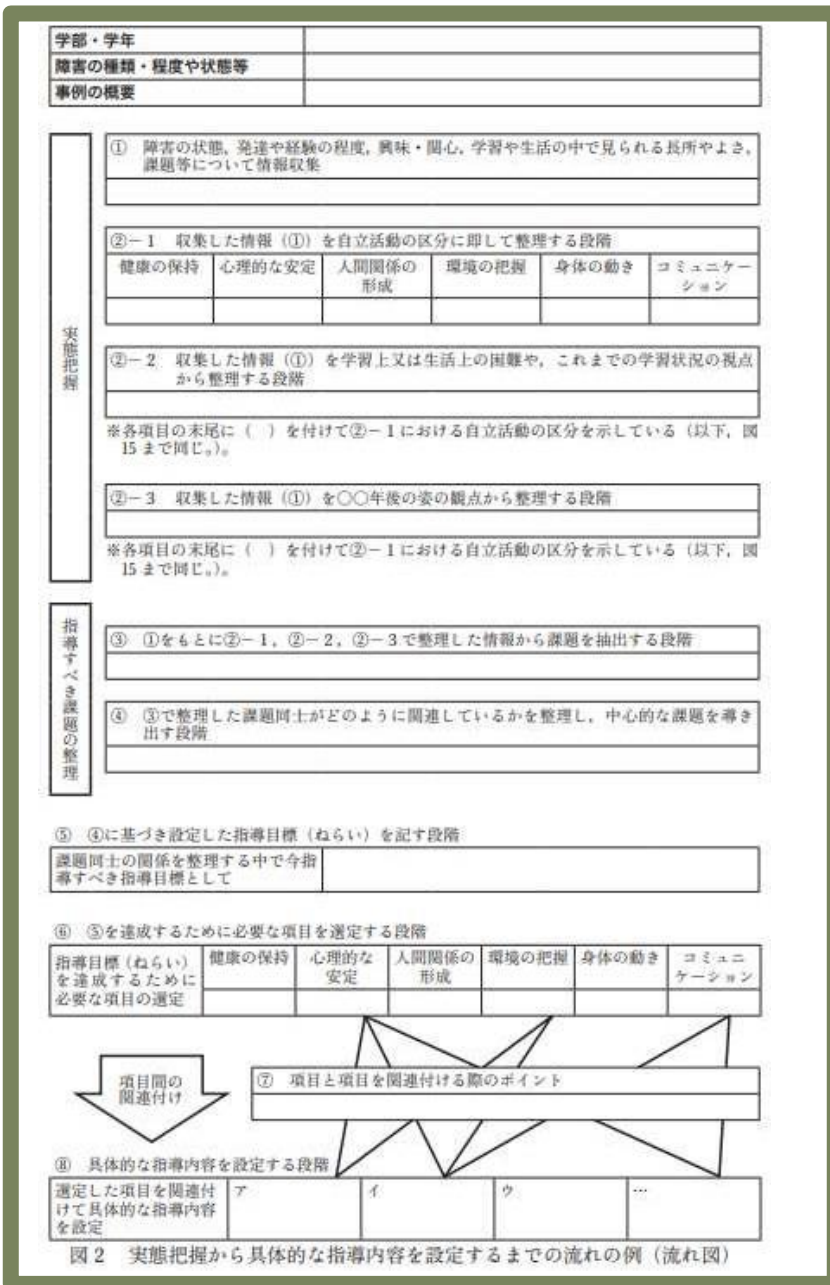
特別支援学校小学部・中学部学習指導要領第7章3

個別の指導計画から授業へ



一人一人の子どもに合った指導を
創り出していく

実態把握から具体的な指導内容を設定するまでの流れの例



実態把握から具体的な指導内容を
設定するまでの流れの例

流れ図

(学習指導要領解説 自立活動編)

実態把握 ① 情報の収集

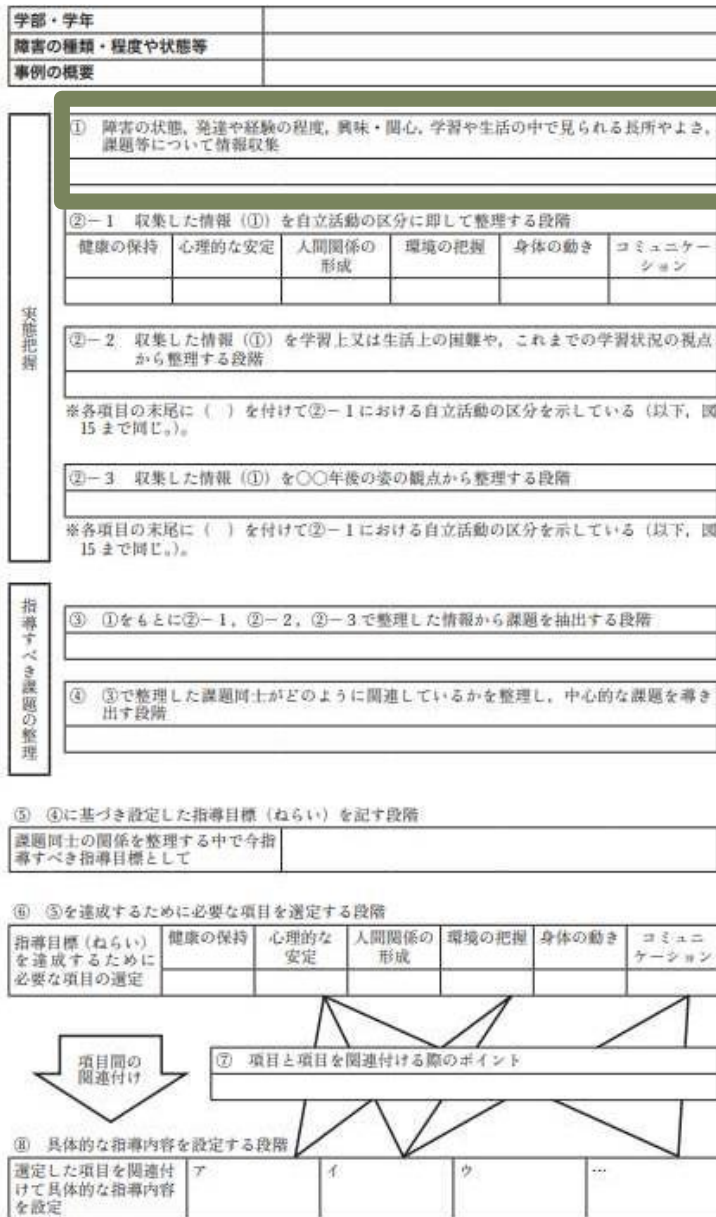


図2 実態把握から具体的な指導内容を設定するまでの流れの例(流れ図)

① 障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集

- できないことばかりに注目するのではなく、できることにも着目
- どのような手立てや配慮、環境であれば、できる、できつつあるのかという視点が大切
- 子どもは、常に変容し、成長している存在
- 日々の観察や学習状況から実態把握を修正しながら、深化させていく視点が重要

実態把握 ② 情報の整理

学部・学年	
障害の種類・程度や状態等	
事例の概要	

① 障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよき、課題等について情報収集

②-1 収集した情報(①)を自立活動の区分に即して整理する段階

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
-------	--------	---------	-------	-------	-----------

②-2 収集した情報(①)を学习上又は生活上の困難や、これまでの学習状況の視点から整理する段階

※各項目の末尾に()を付けて②-1における自立活動の区分を示している(以下、図15まで同じ。)

②-3 収集した情報(①)を○○年後の姿の観点から整理する段階

※各項目の末尾に()を付けて②-1における自立活動の区分を示している(以下、図15まで同じ。)

③ ①をもとに②-1、②-2、②-3で整理した情報から課題を抽出する段階

④ ③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階

⑤ ④に基づき設定した指導目標(ねらい)を記す段階

課題同士の関係を整理する中で今指導すべき指導目標として

⑥ ⑤を達成するために必要な項目を選定する段階

指導目標(ねらい)を達成するために必要な項目の選定	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
---------------------------	-------	--------	---------	-------	-------	-----------

⑦ 項目と項目を関連付ける際のポイント

⑧ 具体的な指導内容を設定する段階

選定した項目を関連付けて具体的な指導内容を設定	ア	イ	ウ	...
-------------------------	---	---	---	-----

②-1 収集した情報(①)を自立活動の区分に即して整理する段階

・6区分27項目を活用して整理

→障害名のみによって特定の内容に偏ることがないよう、その子の全体像を捉えて整理する

図2 実態把握から具体的な指導内容を設定するまでの流れの例(流れ図)

実態把握 ② 情報の整理

学部・学年	
障害の種類・程度や状態等	
事例の概要	

実態把握	① 障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよき、課題等について情報収集												
	②-1 収集した情報(①)を自立活動の区分に即して整理する段階												
	<table border="1"> <tr> <th>健康の保持</th> <th>心理的な安定</th> <th>人間関係の形成</th> <th>環境の把握</th> <th>身体の動き</th> <th>コミュニケーション</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション						
	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション							
②-2 収集した情報(①)を学习上又は生活上の困難や、これまでの学習状況の観点から整理する段階													
※各項目の末尾に()を付けて②-1における自立活動の区分を示している(以下、図15まで同じ。)													
②-3 収集した情報(①)を〇〇年後の姿の観点から整理する段階													
※各項目の末尾に()を付けて②-1における自立活動の区分を示している(以下、図15まで同じ。)													

指導すべき課題の整理	③ ①をもとに②-1、②-2、②-3で整理した情報から課題を抽出する段階
	④ ③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階

⑤ ④に基づき設定した指導目標(ねらい)を記す段階
課題同士の関係を整理する中で今指導すべき指導目標として

⑥ ⑤を達成するために必要な項目を選定する段階						
指導目標(ねらい)を達成するために必要な項目の選定	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション

項目間の関連付け

⑦ 項目と項目を関連付ける際のポイント

⑧ 具体的な指導内容を設定する段階				
選定した項目を関連付けて具体的な指導内容を設定	ア	イ	ウ	...

②-2 収集した情報(①)を学习上または生活上の困難や、これまでの学習状況の観点から整理する段階

- ・ 学习上または生活上の困難の視点で整理
→これまでの学習の状況を踏まえ、学习上または生活上の難しさだけでなく、既にできていること、支援があればできることなども記載する

図2 実態把握から具体的な指導内容を設定するまでの流れの例(流れ図)

実態把握 ② 情報の整理

学部・学年	
障害の種類・程度や状態等	
事例の概要	

実態把握	① 障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよき、課題等について情報収集												
	②-1 収集した情報(①)を自立活動の区分に即して整理する段階												
	<table border="1"> <tr> <th>健康の保持</th> <th>心理的な安定</th> <th>人間関係の形成</th> <th>環境の把握</th> <th>身体の動き</th> <th>コミュニケーション</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション						
	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション							
②-2 収集した情報(①)を学習上又は生活上の困難や、これまでの学習状況の観点から整理する段階													
※各項目の末尾に()を付けて②-1における自立活動の区分を示している(以下、図15まで同じ。)													
②-3 収集した情報(①)を〇〇年後の姿の観点から整理する段階													
※各項目の末尾に()を付けて②-1における自立活動の区分を示している(以下、図15まで同じ。)													
指導すべき課題の整理	③ ①をもとに②-1、②-2、②-3で整理した情報から課題を抽出する段階												
	④ ③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階												
⑤ ④に基づき設定した指導目標(ねらい)を記す段階													
課題同士の関係を整理する中で今指導すべき指導目標として													
⑥ ⑤を達成するために必要な項目を選定する段階													
指導目標(ねらい)を達成するために必要な項目の選定	<table border="1"> <tr> <th>健康の保持</th> <th>心理的な安定</th> <th>人間関係の形成</th> <th>環境の把握</th> <th>身体の動き</th> <th>コミュニケーション</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション						
健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション								
⑦ 項目と項目を関連付ける際のポイント													
⑧ 具体的な指導内容を設定する段階													
選定した項目を関連付けて具体的な指導内容を設定	<table border="1"> <tr> <th>ア</th> <th>イ</th> <th>ウ</th> <th>...</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	ア	イ	ウ	...								
ア	イ	ウ	...										

②-3 収集した情報(①)を〇〇年後の姿から整理する段階

- 生活年齢や学校で学ぶことのできる残りの年数を視野に入れた整理
- その子の「〇〇年後の姿」をイメージしたり、卒業までにどのような力を、どこまで育おとよいのかを想定したりして整理する

図2 実態把握から具体的な指導内容を設定するまでの流れの例(流れ図)

【3年後の姿】 中学部1年生

様々な人とのやりとりの中で、視線や表情、身体の動きで感じたことを表出することができるようになってほしい

<健康の保持>

睡眠と覚醒のリズムが不安定
眠った状態で登校することが多い

<心理的な安定>

快・不快を表情などで表すことができる

<人間関係の形成>

自分の名前を呼ばれても表情や身体の動きなどで応えることがあまり見られない

<コミュニケーション>

話しかけられても相手に応じることが少ない

<人間関係の形成>

他者からの関わりに対して注意を向けることが難しい

<環境の把握>

不随意的な眼球運動があり固視が安定しにくい

<環境の把握>

高い音やガサガサした音がすると表情を変えたり声を出したりすることがある

<身体の動き>

腰や肩への教師の援助がないとあぐら座位を保持することが難しい

<身体の動き>

定頭しつつあるが、座位保持装置での座位では頭部が前傾することが多い

<身体の動き>

教師からの促しがないと下肢に力を入れて踏みしめる動きが出にくい

<身体の動き>

首・肩周りの筋緊張が強い

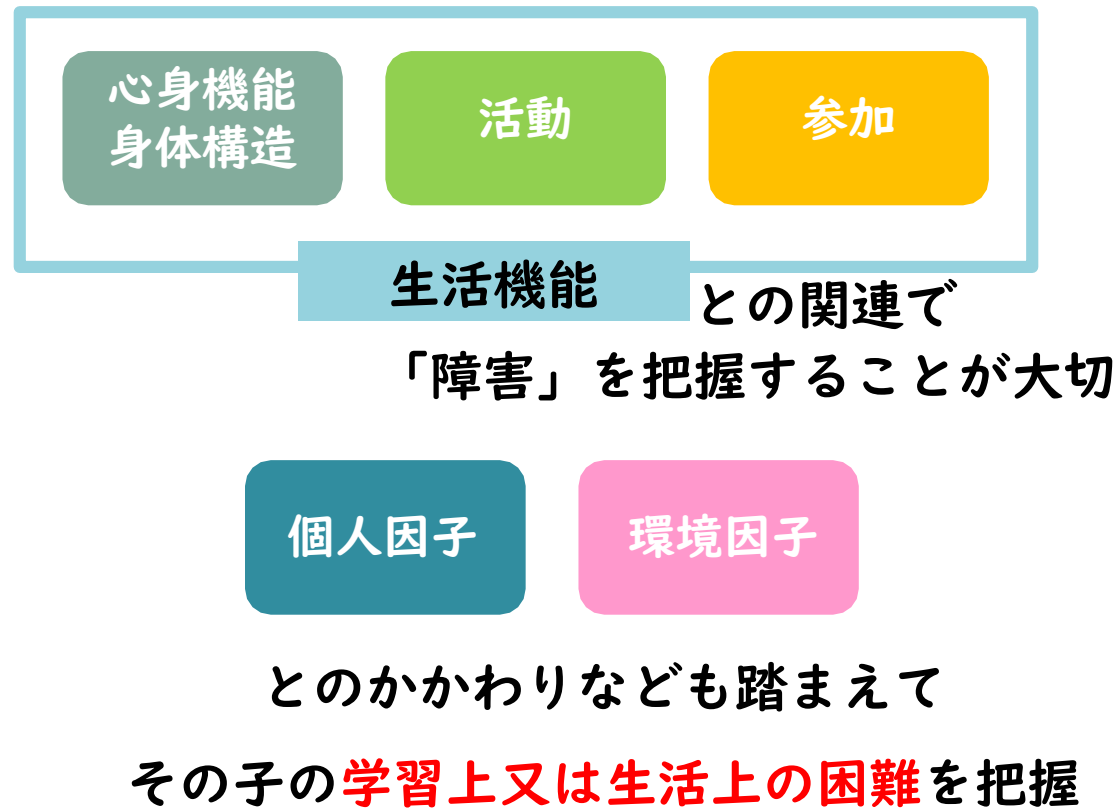
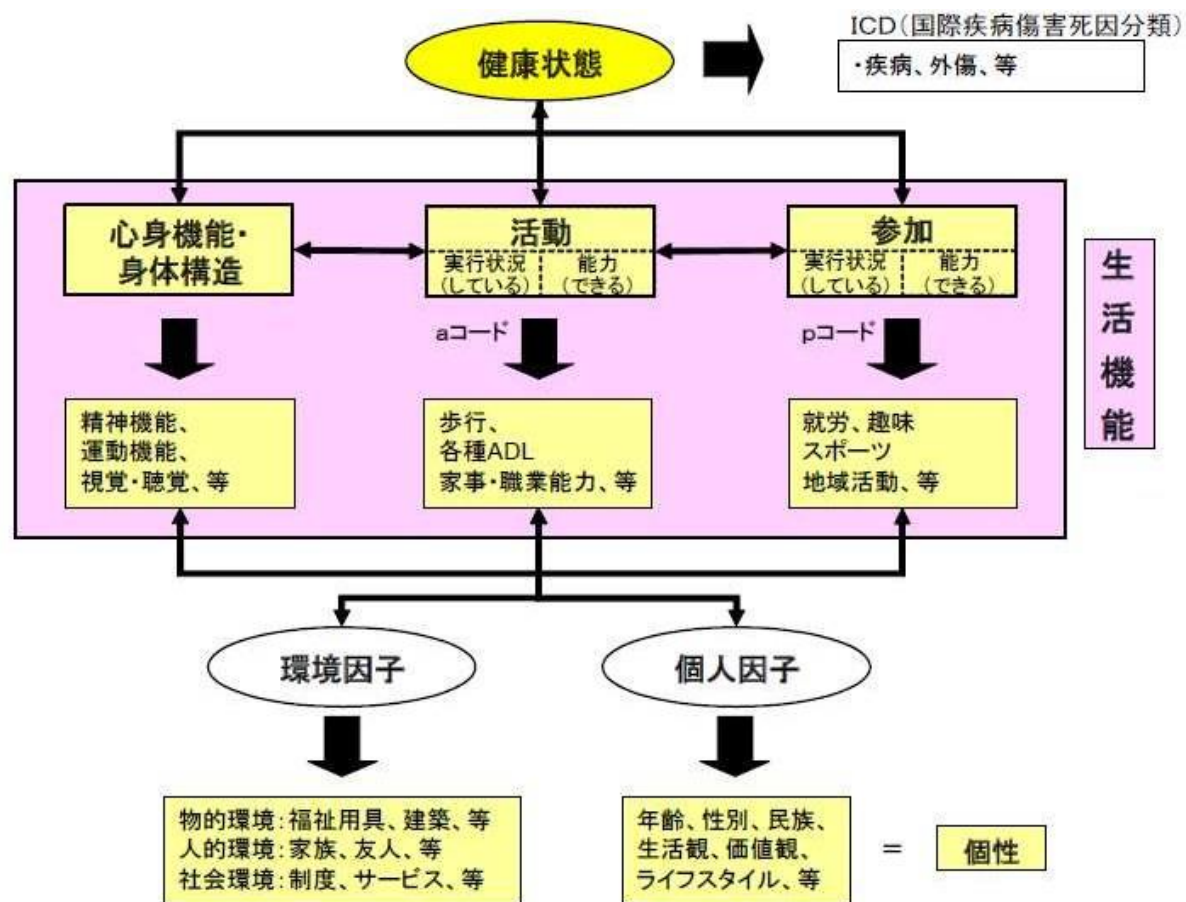


小学部5年生

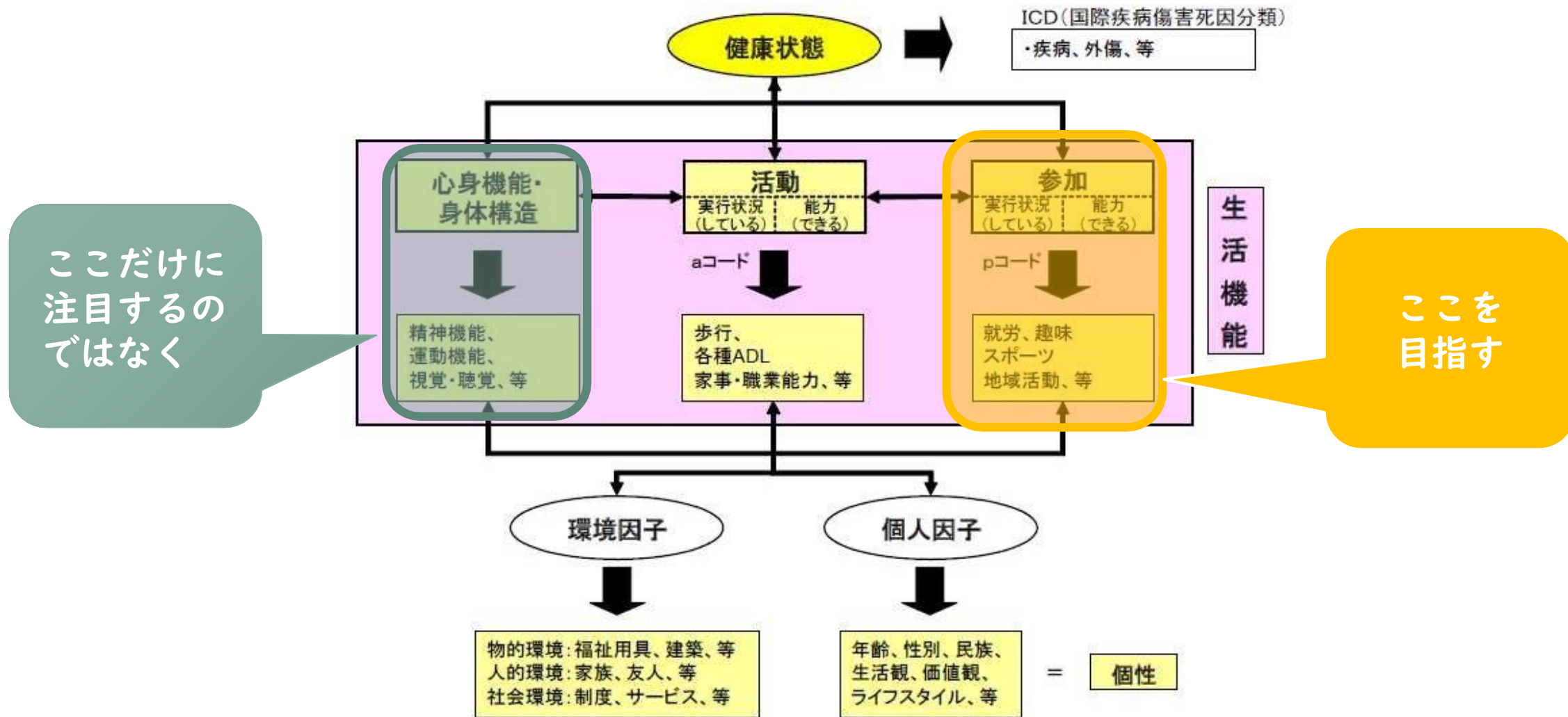
これまでの生活・学びの履歴

- ・教師の援助を受けてあぐら座位や立位を保持すること、他者からの働きかけに気づくことを目標に学習に取り組んできた。
- ・腰と肩を支える程度の援助があれば、頭部や体幹に適度な力を入れてあぐら座位を保持することが上達している。
- ・他者からの働きかけや提示された物に気づき、頭部を安定させて視線を向けることがまだ難しい。
- ・興味がある物や活動について、まだ十分に把握できていない。

ICF の考え方を参考



生活モデルで考える



その人の生活が豊かになるには？を考える

指導すべき課題の整理③

学部・学年	
障害の種類・程度や状態等	
事例の概要	

実態把握	① 障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよき、課題等について情報収集												
	②-1 収集した情報(①)を自立活動の区分に即して整理する段階 <table border="1"> <tr> <td>健康の保持</td> <td>心理的な安定</td> <td>人間関係の形成</td> <td>環境の把握</td> <td>身体の動き</td> <td>コミュニケーション</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション						
	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション							
②-2 収集した情報(①)を学習上又は生活上の困難や、これまでの学習状況の観点から整理する段階 <small>※各項目の末尾に()を付けて②-1における自立活動の区分を示している(以下、図15まで同じ。)</small>													
②-3 収集した情報(①)を○○年後の姿の観点から整理する段階 <small>※各項目の末尾に()を付けて②-1における自立活動の区分を示している(以下、図15まで同じ。)</small>													

指導すべき課題の整理	③ ①をもとに②-1、②-2、②-3で整理した情報から課題を抽出する段階
	④ ③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階

⑤ ④に基づき設定した指導目標(ねらい)を記す段階
課題同士の関係を整理する中で今指導すべき指導目標として

⑥ ⑤を達成するために必要な項目を選定する段階												
指導目標(ねらい)を達成するために必要な項目の選定	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション						
健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション							

項目間の関連付け

⑦ 項目と項目を関連付ける際のポイント

⑧ 具体的な指導内容を設定する段階								
選定した項目を関連付けて具体的な指導内容を設定	ア	イ	ウ	...				
ア	イ	ウ	...					

③ ①をもとに②-1、②-2、②-3で整理した情報から課題を抽出する段階

・ ②で整理した情報の中から、指導開始時点で課題となることを抽出する

→一つ一つの課題に詳細な検討をするよりも、必要と思われたものを挙げていく

→課題の背景やその要因の推測や、できるときの状況等を整理

図2 実態把握から具体的な指導内容を設定するまでの流れの例(流れ図)

指導すべき課題の整理④

学部・学年	
障害の種類・程度や状態等	
事例の概要	

実態把握	① 障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよき、課題等について情報収集												
	②-1 収集した情報(①)を自立活動の区分に即して整理する段階 <table border="1"> <tr> <td>健康の保持</td> <td>心理的な安定</td> <td>人間関係の形成</td> <td>環境の把握</td> <td>身体の動き</td> <td>コミュニケーション</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション						
	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション							
②-2 収集した情報(①)を学習上又は生活上の困難や、これまでの学習状況の観点から整理する段階													
②-3 収集した情報(①)を〇〇年後の姿の観点から整理する段階													

※各項目の末尾に()を付けて②-1における自立活動の区分を示している(以下、図15まで同じ。)

指導すべき課題の整理	③ ①をもとに②-1、②-2、②-3で整理した情報から課題を抽出する段階
	④ ③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階

⑤ ④に基づき設定した指導目標(ねらい)を記す段階
課題同士の関係を整理する中で今指導すべき指導目標として

⑥ ⑤を達成するために必要な項目を選定する段階												
指導目標(ねらい)を達成するために必要な項目の選定	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション						
健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション							

項目間の関連付け

⑦ 項目と項目を関連付ける際のポイント

⑧ 具体的な指導内容を設定する段階				
選定した項目を関連付けて具体的な指導内容を設定	ア	イ	ウ	...
ア	イ	ウ	...	

④ ③で整理した課題同士の関連を整理し、中心的な課題を導き出す段階

・ ③で抽出した課題同士がどのように関連しているのかを整理し、中心的な課題を導き出す

→ 指導時点で「できること」、「もう少しでできること」、「支援があればできること」、「できないこと」に着目して整理

→ ここで導かれた課題は仮説に過ぎない。

見直しを重ねながら課題の整理・精選を！

図2 実態把握から具体的な指導内容を設定するまでの流れの例(流れ図)

課題の抽出

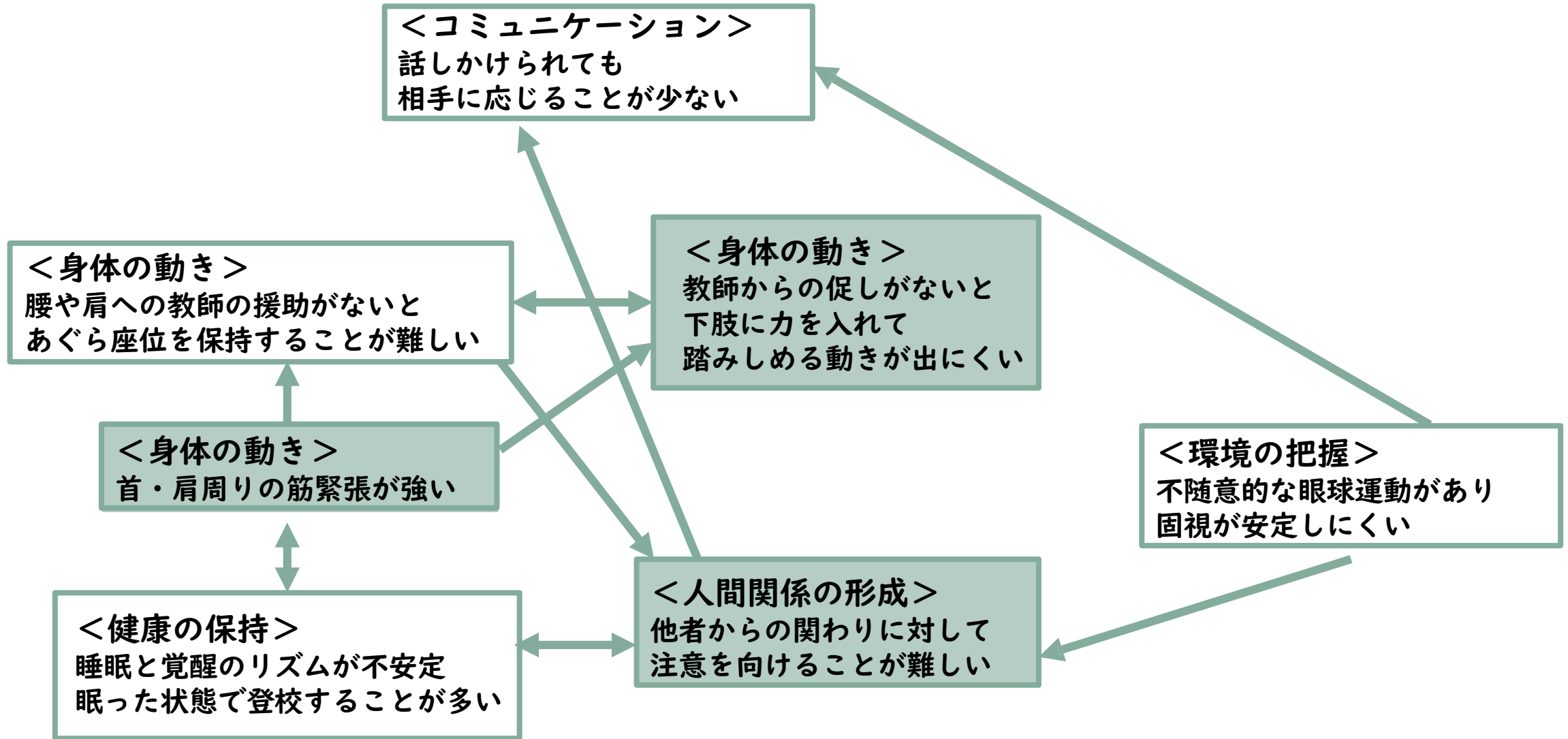
【これまでの生活・学びの履歴から】

- 睡眠と覚醒のリズムを整えるため、自立活動の時間を中心に教育活動全体を通して、固有受容覚や聴覚に働きかけたり、抗重力姿勢をとる機会を多く設けたりしている。
- 教師の援助があれば頭部と幹に適度な力を入れて座位を保持することができるようになってきており、車椅子での座位では、頭部を起こす時間が長くなってきた。
- 他者からの働きかけに気づき、注意を向け、やりとりすることに関しては、確かな芽生えや成長は見られていない。

【3年後の姿から】 中学部1年生

- 他者からの関わりに対して視線を向けたり身体を動かしたりして応える力を身につけていくためには、頭部と体幹に適度な力を入れて座位や立位姿勢を保持する力を高めながら、他者との二項関係を確かなものにする必要がある。
- 身体の成長に伴い、移乗等の際の介助者の負担が大きくなることが想定される。負担軽減を図るためにも、立位を保持する力を高める必要がある。

課題関連図



指導目標⑤

学部・学年	
障害の種類・程度や状態等	
事例の概要	

① 障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよき、課題等について情報収集

②-1 収集した情報(①)を自立活動の区分に即して整理する段階

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション

②-2 収集した情報(①)を学習上又は生活上の困難や、これまでの学習状況の観点から整理する段階

※各項目の末尾に()を付けて②-1における自立活動の区分を示している(以下、図15まで同じ。)

②-3 収集した情報(①)を〇〇年後の姿の観点から整理する段階

※各項目の末尾に()を付けて②-1における自立活動の区分を示している(以下、図15まで同じ。)

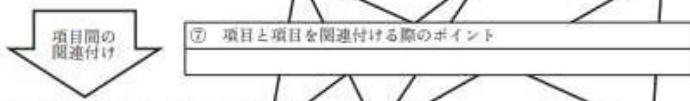
③ ①をもとに②-1、②-2、②-3で整理した情報から課題を抽出する段階

④ ③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階

⑤ ④に基づき設定した指導目標(ねらい)を記す段階
課題同士の関係を整理する中で今指導すべき指導目標として

⑥ ⑤を達成するために必要な項目を選定する段階

指導目標(ねらい)を達成するために必要な項目の選定	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション



⑧ 具体的な指導内容を設定する段階

選定した項目を関連付けて具体的な指導内容を設定	ア	イ	ウ	...

図2 実態把握から具体的な指導内容を設定するまでの流れの例(流れ図)

⑤ ④に基づき設定した指導目標(ねらい)を記す段階

・課題同士の関係を整理する中で、今指導すべき指導目標を設定

→指導目標は、学年等の長期的な目標とともに

当面の短期的な目標を定めることが

自立活動の効果を高めるために必要

→子どもにとって意味あること

→横方向への広がり(内容、人、空間、時間の広がり)

目標 1

教師が肩と腰の援助をすることで、10秒間程度両足で踏みしめようと下肢に力を入れることができる。

目標 2

教師に言葉を掛けられることや身体を介した関わりに対して、発声や表情、身体のを抜く、入れるなどで表現し、応えようとすることができる。

必要な指導項目の選定⑥

学部・学年	
障害の種類・程度や状態等	
事例の概要	

① 障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよき、課題等について情報収集
--

②-1 収集した情報(①)を自立活動の区分に即して整理する段階					
健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション

②-2 収集した情報(①)を学习上又は生活上の困難や、これまでの学習状況の観点から整理する段階

※各項目の末尾に()を付けて②-1における自立活動の区分を示している(以下、図15まで同じ。)

②-3 収集した情報(①)を〇〇年後の姿の観点から整理する段階

※各項目の末尾に()を付けて②-1における自立活動の区分を示している(以下、図15まで同じ。)

③ ①をもとに②-1、②-2、②-3で整理した情報から課題を抽出する段階

④ ③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階

⑤ ④に基づき設定した指導目標(ねらい)を記す段階

課題同士の関係を整理する中で今指導すべき指導目標として

⑥ ⑤を達成するために必要な項目を選定する段階					
-------------------------	--	--	--	--	--

指導目標(ねらい)を達成するために必要な項目の選定	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
---------------------------	-------	--------	---------	-------	-------	-----------



⑦ 項目と項目を関連付ける際のポイント

⑧ 具体的な指導内容を設定する段階					
-------------------	--	--	--	--	--

選定した項目を関連付けて具体的な指導内容を設定	ア	イ	ウ	...
-------------------------	---	---	---	-----

⑥ ⑤を達成するために必要な項目を選定する段階

→指導目標を達成するために、どのような指導の要素が必要か検討する

→6区分27項目の内容に照らして必要な要素を整理する

図2 実態把握から具体的な指導内容を設定するまでの流れの例(流れ図)

項目間の関連付け⑦

学部・学年	
障害の種類・程度や状態等	
事例の概要	

実態把握	① 障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよき、課題等について情報収集												
	②-1 収集した情報(①)を自立活動の区分に即して整理する段階												
	<table border="1"> <tr> <th>健康の保持</th> <th>心理的な安定</th> <th>人間関係の形成</th> <th>環境の把握</th> <th>身体の動き</th> <th>コミュニケーション</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション						
	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション							
②-2 収集した情報(①)を学習上又は生活上の困難や、これまでの学習状況の観点から整理する段階													
②-3 収集した情報(①)を〇〇年後の姿の観点から整理する段階													
指導すべき課題の整理	③ ①をもとに②-1、②-2、②-3で整理した情報から課題を抽出する段階												
	④ ③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階												
	⑤ ④に基づき設定した指導目標(ねらい)を記す段階												
	⑥ ⑤を達成するために必要な項目を選定する段階												
	⑦ 項目と項目を関連付ける際のポイント												
	⑧ 具体的な指導内容を設定する段階												

⑦ 項目と項目を関連付ける際のポイント

→ 「⑤の指導目標を達成するためには、こんな力を育てる必要がある。だから、区分○の項目○と区分□の項目□とを関連付けて指導する」など

④の課題の整理や課題同士の関連のまとまりなどを振り返りながら検討することが大切

図2 実態把握から具体的な指導内容を設定するまでの流れの例(流れ図)

具体的な指導内容の設定⑦

学部・学年	
障害の種類・程度や状態等	
事例の概要	

① 障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよき、課題等について情報収集

②-1 収集した情報(①)を自立活動の区分に即して整理する段階

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
-------	--------	---------	-------	-------	-----------

②-2 収集した情報(①)を学習上又は生活上の困難や、これまでの学習状況の観点から整理する段階

※各項目の末尾に()を付けて②-1における自立活動の区分を示している(以下、図15まで同じ)。

②-3 収集した情報(①)を〇〇年後の姿の観点から整理する段階

※各項目の末尾に()を付けて②-1における自立活動の区分を示している(以下、図15まで同じ)。

③ ①をもとに②-1、②-2、②-3で整理した情報から課題を抽出する段階

④ ③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階

⑤ ④に基づき設定した指導目標(ねらい)を記す段階

課題同士の関係を整理する中で今指導すべき指導目標として

⑥ ⑤を達成するために必要な項目を選定する段階

指導目標(ねらい)を達成するために必要な項目の選定	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
---------------------------	-------	--------	---------	-------	-------	-----------

⑦ 項目と項目を関連付ける際のポイント

⑧ 具体的な指導内容を設定する段階

選定した項目を関連付けて具体的な指導内容を設定	ア	イ	ウ	...
-------------------------	---	---	---	-----

図2 実態把握から具体的な指導内容を設定するまでの流れの例(流れ図)

⑧ 具体的な指導内容を設定する段階

→学習指導要領解説自立活動編

「具体的な指導内容を設定する際の配慮事項」を踏まえて検討することが大切

- 1) 興味をもって主体的に取り組み、成就感を味わうとともに自己を肯定的に捉えることができるような指導内容
- 2) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服しようとする意欲を高めることができるような指導内容
- 3) 発達の遅れている側面を補うために、発達の進んでいる側面をさらに伸ばすような指導内容
- 4) 活動しやすいように自ら環境を整えたり、必要に応じて周囲の人に支援を求めたりすることができるような指導内容
- 5) 自己選択・自己決定する機会を設けることによって、思考・判断・表現する力を高めることができるような指導内容
- 6) 自立活動における学習の意味を将来の自立や社会参加に必要な資質・能力との関係において理解し、取り組めるような指導内容

必要な指導項目の選定と指導内容の設定

目標 1

教師が肩と腰の援助をすることで、
10秒間程度両足で踏みしめようと下肢に力を入れることができる。

区分	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
項目	(1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関する こと		(1) 他者とのかかわりの 基盤に関する こと		(1) 姿勢と運動・動作の基本的 技能に関する こと	

具体的 指導内容	教師の促しに応じて 身体各部位の緊張を緩める	教師の援助を受けながら あぐら座位をとり 促しに応じて頭部や体幹に 適度な力を入れる	後方にいる教師からの 膝、腰、肩への援助を受け て下肢に力を入れて 立位姿勢を保持する
-------------	---------------------------	---	--

必要な指導項目の選定と指導内容の設定

目標2

教師に言葉を掛けられることや身体を介した関わりに対して、発声や表情、身体の力を抜く、入れるなどで表現し、応えようとすることができる。

区分	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
項目			(1) 他者とのかかわりの基盤に関する こと	(1) 保有する感覚の活用に関する こと	(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関する こと	(1) コミュニケーションの基礎的能力に関する こと

具体的 指導内容	教師と一緒に簡単な歌遊びを繰り返し行い 教師からの働き掛けに気付く	特定の教師の言葉掛けや 身体を通したやりとりに注意を向けながら教師の促しに応じて一緒に腕を挙げる
-------------	--------------------------------------	---

自立活動の専門性

その子を
知ろうとする

子どもの捉え



これまでの経験

学びの習得状況

長所やよさ

なっしてほしい姿

生活年齢
学部・学年

発達の状況

興味・関心

家庭や地域での
生活の様子

身体の状態

健康状態

認知の特性

障害による困難（学びにくさ）

その子の
様子から
捉えを
確かめる
見直す

子どもがよりよく学びに向かえるよう考え工夫する
自立活動の指導・手立てや配慮

自立活動の専門性

参考文献

文部科学省（2018）．特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）．文部科学省．

下山直人（監修）筑波大学附属桐が丘特別支援学校・自立活動研究会（編著）（2021, 2022）
よく分かる！自立活動ハンドブック1～3．ジアース教育新社

北川貴章・安藤隆男（編著）（2019）「自立活動の指導」のデザインと展開—悩みを成長につなげる実践32—．ジアース教育新社．

安藤隆男（2021）新たな時代における自立活動の創成と展開 個別の指導計画システムの構築を通して．教育出版

古川勝也・一木薫（編著）（2016）自立活動の理念と実践—実態把握から指導目標・内容の設定に至るプロセス—．ジアース教育新社．

特定非営利活動法人 日本肢体不自由児教育研究会（2023）．自立活動の指導．手足の不自由な子どもたち 肢体不自由教育，260．社会福祉法人 日本肢体不自由児協会

・